

# 令和3年度 第2回 藤沢市地域福祉計画推進委員会

## 議 事 要 旨

### I. 開催概要

1. 日 時 2021年（令和3年）9月3日（金）9時30分～11時30分

2. 会 場 藤沢市役所 本庁舎7階 7-1・7-2

### 3. 出席者

(1) 委員＝18名

・会場出席者

石渡 和実、川原田 武、椎野 幸一、山口 燿子、浅野 朝子

・オンライン出席者

松永 文和、東田 正喜、小池 信幸、戸高 洋充、木村 依子、  
越智 明美、宮久 雪代、市川 勤、南部 久子、伊原 敦、  
川辺 克郎、松沢 邦芳、江崎 康子

・欠席者

末吉 育子、森 もと江、越川 玲子

(2) 事務局＝9名

・地域共生社会推進室：玉井室長、片山主幹、浅野主幹、越川室長補佐、  
山中室長補佐、石田主査、佐藤主査、糊澤、高松

(3) 傍聴者＝2人

### 4. 議 題

1. 開 会

2. 議 題

(1) 今年度のスケジュールについて

(2) 重層的支援体制整備事業について

(3) 藤沢市地域福祉計画2026の推進・進行管理について

①進行管理の方法について

②成果目標の達成に関する意見交換

3. その他

4. 閉 会

## II. 会議の概要（議事要旨）

### 1. 開 会

事務局の事務連絡後、石渡委員長より挨拶があり議事に入った。

### 2. 議 題

#### （1）今年度のスケジュールについて

《資料1に基づいて事務局 榑澤より説明》  
→質疑なし

#### （2）重層的支援体制整備事業について

《資料2、冊子本編『藤沢市地域福祉計画2026』、当日配布資料「重層的支援体制整備事業における相談支援」に基づいて事務局 榑澤より説明》

##### ○石渡委員長

国が法改正に基づき重層的支援体制整備事業を打ち出して、藤沢市は藤沢市らしく前に進んでいるという説明があった。意見等はあるか。

##### ○松永委員

国が示した重層的支援体制整備事業に対して、神奈川では移行準備期間として藤沢市を含めた6つの自治体が手を挙げている。藤沢市はモデル事業も経ているため、取り組みが進んでいる地域の一つである。今後は、資料の通り進んでいるのかなど、行政だけではなく、関係機関や市民の視点からの確認作業も進んでいくと思っている。

##### ○石渡委員長

行政だけではなく、市民の立場からの意見も求められる。

##### ○市川委員

体系づくりの中で市社協が一括りになっているが、地区社協は市社協の下に位置しているわけではない。独自の活動をしている地区社協が、地域福祉計画に関してどう理解されているのか。他の団体と比べ、地区社協が離れていると懸念している。一括りになっている市社協が地区社協と連携していく枠組みづくりにしていただきたい。

##### ○石渡委員長

重要な指摘である。以前から市川委員は地区社協の活動に関して尽力されていると感じている。この意見に関して伊原委員いかがか。

##### ○伊原委員

計画の中には地区社協という言葉はないが、市社協の役割は、地区社協をはじめとした地域の最前線で活動されている様々な団体の地域活動を支援することである。重

層的支援体制整備事業の中で、地区社協等の事業が機能するように、どのようなプラットフォームづくりをするのかが大きな課題だと思っている。

○椎野委員

皆様、地区社協がどのような取り組みをしていくべきなのかわかっていないと思う。これまでの地域活動で計画にリンクする内容の活動があれば、その活動に向上心を持って取り組むと良いと思う。数年後になるかもしれないが、この仕組みで本当に可能かどうか研究しながら、計画の活動が充実していくのではないかとと思っている。

○石渡委員長

これまでの地区社協の活動を着実に展開していくことが、このシステムの中で整理されて次へ進んでいくという意見であった。

○川原田委員

今期1回目の地区社協連絡協議会の会議の際、地域福祉計画に関して、事務局より説明をいただいた。各地区に持ち帰り、何ができるか等を協議し、必要に応じ各担当部署に説明に来ていただくということを考えている。我々が地域福祉計画を纏めているが、実際に活動するのは市民だと思っている。自治会、老人クラブ、見守りネットの3者協議で、孤独死などの現状の課題の解決方法を話し合うため、担当部署に来ていただくことになっている。地域福祉計画に関して、市社協とも連携していかなければいけないと思っている。

○石渡委員長

他地区との地域活動の連携方法や情報共有に関して、生活支援コーディネーターなども交えた活動が広がっていくと良いと感じた。

○山口委員

地域福祉計画は誰がやるのか疑問であったが、地域住民が協力し合ってやるということに共感できる。そのためには地域福祉計画を住民が手軽に手に取って読めるようにしなければいけない。こういった計画が立てられているということを住民が知らなければ、計画は進まない。

○石渡委員長

本会議は良い活動をするためのきっかけづくりに役立つと感じている。

**(3) 藤沢市地域福祉計画2026の推進・進行管理について**

**① 進行管理の方法について**

《資料3、4に基づいて事務局 榎澤より説明》

○石渡委員長

進行管理に関する説明があった。現在の地域での取り組みやまだやり切れていない取り組みなどに関してアイデアを出していただき、どう具体化していくのか検討していくことになる。方法や進め方、提案等があれば意見を伺いたい。

○椎野委員

手順1から5の流れは大事なステップだと思う。しかし、委員が計画の問題点や実施した内容を把握していないと纏めることはできない。1について、課題整理が不足している。委員も問題や課題を把握していない。2について、アイデアを出すには問題や課題整理が必要である。御所見地区は計画の作成を最初に取り組みしており、御所見地区のものができたら、他地区にも拡大できたら良いと思う。本来であれば、市社協が20年までの活動を纏めた上で、課題整理をする必要があった。

○伊原委員

課題が整理されていないと先に進まないというのはその通りだと思う。課題は地域毎に異なると思うが、整理する必要があると思う。それを踏まえて、次のステップでアイデア出しができると思う。市社協では、CSWや生活支援コーディネーターが各地域におり、地域ケア会議にも出席している。その中で、地域の方々と課題の整理を進めさせていただきたい。

○石渡委員長

CSWなどが地域課題を整理することを待つことになると思うが、スケジュールに関して説明をいただきたい。

○事務局

次回会議までに成果目標に対して市が捉えている課題を追記して、郵送する。スケジュールについては、今年度でのまとめを目指し、会議等での意見を集約して年度の最後の会議ではかりたい。

○椎野委員

課題整理が全てではないと思う。アンケート結果だけでは、達成できた要因や達成できなかった要因は判断できない。よし悪しは別にして、アンケートの結果だけでは問題は解明できない。

○石渡委員長

課題整理は役割として市がやってくれる。住民が自分の生活圏の中で課題だと思うことを明確にして、それを各地区と地区社協と一緒に取り組んでいくことになると思う。アンケートは一つの指標であり、住民がどのように受け止めたかということを経験で共有していくことになると思っている。

○椎野委員

その通りだと思う。御所見以外で計画を作った地区はない。計画を作っていないので実績の分析ができない。御所見は見直すべきところは見直し、良い取り組みは継続していく検討ができる。そして次に取り組むべきものは何かという段階に進んでいる。

○浅野委員

各団体は次の世代のことを考えてしっかりとやっていると思う。反省も改善に向けた取り組みもしている。その中で、市が纏めたアンケート調査結果を見て、良かった点、悪かった点、藤沢でやりたいことを協議する会ではないのか。福祉は努力と包容力が必要である。若い人がボランティアをやりたいと思っているのにできないといった声などを拾っていくと未来が明るくなるのではないかと思う。コロナでもできることはあり、未来のために各地区や世界の取り組みから良い部分を取り入れていきたい。

○石渡委員長

御所見地区以外においても地区でやっていることの整理が進んでいくと思う。

○事務局

御所見地区では、纏められている内容を踏まえて、推進に向けた基盤が出来上がっていると思うので、その良さを他地区にも広げていくことで相乗効果を期待できる。

○椎野委員

委員が課題を見つけて、その解決方法を考えていかなければいけない。委員が成果目標を見た結果、何ができて何ができなかったのかを考え、会議をしなければいけない。委員と事務局の捉え方が一つにならないと纏まらない。

○石渡委員長

委員が頑張ることで地区が活性化していく。事務局が整理した課題を見て、委員の皆様はそれぞれの立場で、意見等を事務局に提案していただきたい。

○山口委員

善行地区では3年前から居場所づくりや終活に関する取り組みを始めている。9月に郷土づくり推進会議の福祉部会において地域福祉計画において何ができるのかを検討する予定である。また、ほとんどの成果目標の現状値が前回値よりも下がっている要因と縁側ポイント制度について説明をお願いしたい。

○石渡委員長

オンライン出席の方、意見等はあるか。

### ○松永委員

これから先の進行管理が見えにくかった。これから先どうしていくのかがこの計画でも求められてくると思う。1つ目のテーマは住民参加である。2つ目は福祉分野に限らない関係機関の連携である。相談機関とのネットワークを基本とした各分野への拡大などである。3つ目は庁内連携である。事業結果を計画に載せた後の取り組みについてである。秦野市の地域福祉計画は、取り組んでいる部署の名前を載せている。課題の共有や取り組みへの結び付けなど共通して進めていく仕組みを作らないといけない。今あるものを活かしながら進行管理していくことが必要であると思う。

### ○事務局

山口委員の質問についてだが、現状値が前回値よりも下がっている要因に関して、自治会加入率の減少から人との繋がり希薄化が影響しているとも考えられる。現在は、インターネットを活用することで情報を集めて生活することができる便利な社会になってきている。1人でできるが故に、支えてもらう機会が減少していると考えられる。縁側ポイントに関して、市社協に登録されたボランティアが指定の施設に於いてボランティア活動を行うことで1日1ポイント付与され、年間50ポイントまで貯めることができる制度である。貯めたポイントは、1ポイントを100円に換金することができる。

### ○石渡委員長

自治会の加入率の低下が目標値の低下に関連している可能性があるという話と庁内連携が一番難しいという話があった。これから取り組むべき課題であると感じた。

### ○宮久委員

庁内連携の必要性を感じている。コロナワクチンの接種について、広報ふじさわには市のHPに記載されている優先接種に関する詳細な説明がなかった。ワクチン接種の部署と障がい者支援課が連携して、一文だけでも説明記載があるべきだった。また、災害時の要支援者対策に関しても連携不足を非常に感じている。支援者対策の目標値20%に関して、その根拠や危機管理課がどのように目標値の達成を目指しているのか不明である。障がい者支援課と危機管理課が連携できていないと感じる。障がい者は自ら出てきてもらわないと要支援者対策は整わないとい7、8年間言われ続けているが、先月の福祉団体連絡会での会議において、障がい者は自分で地域に出ていくのは難しいため、それを可能にする雰囲気や場面づくりを行政に取り組んでほしいという意見が纏まった。各課が単体で取り組んでいて、市民に行き届かないという縦割りの弊害を感じている。障がい者は支援の厚みが厚くなりすぎる前に対応しないと行き詰ってしまうので、各課や教育や福祉に関わる人たちは確実にデータを残すなどの協力依頼をする必要を強く感じている。

○石渡委員長

行政にはしっかりと受け止めていただければと思う。

○南部委員

前回の委員会後、ボランティアセンターで行政の方に地域福祉計画について説明をしていただき、自分たちができることについて話し合うことができた。今は自宅の中に入ってボランティア活動ができないので、電話連絡やハガキ連絡の提案などがあった。情報提供に関して、高齢者は意外とタウンニュースを見ているという印象がある。広報ふじさわよりタウンニュースの方が見やすいという印象もある。地区でも見てもらうということ意識して考えていきたい。

○石渡委員長

行政と繋がることで身近な活動も具体的になってくると感じた。

○越智委員

藤沢市にある子供会の組織率は1.5%位まで低くなってしまっている。コロナ過で子供会が休止や解散してしまうところも増えてきている。高齢者が頑張っている町内会もあるが、若い人の参加率は大きく下がっている。コロナ過で子供たちも、コミュニケーションの場が減ってきており、これから目標にするべきことも大きく変わってくる。3年先の子供会の未来を悲観的に考えてしまうが、違う組織が出てこないといけないと思うところもあるが、子供を含めて若い人たちがどのように地域に出ていくべきなのかを考えていきたいと思っている。

○石渡委員長

悲観的な状況が多いが、新たな前向きなアイデアが出てくると良いと思っている。

○木村委員

子育て広場や公民館の乳幼児家庭教育学級などは、コロナ過であっても非常に求められている行き場であると感じている。コロナ過でも如何に子育て期に閉鎖的にならずに子育てをするのかという大きな問題がある。コロナにより社会性を断ち切られている現状だが、大きな目で世の中を見ていかないと世の中が悪くなる一方だと感じている。閉鎖的になると虐待も増え、学校が休校になれば給食もなくなる。藤沢市は追い詰められている子供たちが非常に多い。目を逸らしてしまうことが多いが、良い方向に進むよう願っている。

○江崎委員

重層的な相談支援体制の説明と藤沢市では相談支援ネットワークができているという話を聞き、藤沢市は共生社会の推進ができていると感じた。コロナ過で相談支援の輪の中に保健所が入る必要があると感じた。地域の話だが、藤沢市は人口が増えて

きており、善行は特に子供が増えてきていると感じている。近所では、幼稚園がなくなってきたが、幼稚園や保育園は増えていかなければいけない。また、高齢者は毎日の買い物が活力となり、地域にお店があることで近所と繋がることのできる。店を守ることも地域福祉だと思っている。

#### ○宮久委員

子ども会がそのような状況になっているとは知らなかった。一例として、自閉症児者親の会を基盤にした会員非会員を問わない若い人を対象にしたおしゃべりサロンを開いた。そのサロンから新たに若い方が2人入った。門戸を広げた結果のため、皆でアイデアを出し合うことで良い方向に進むと良いと感じた。

### 3. その他

- ・オンラインによる異文化交流事業について

#### ○事務局

スマートフォンやパソコン等のオンラインを使って日本に興味のある海外にいる方などと異文化交流をしようという取り組みである。コロナ過でコミュニケーションが減っている中、海外の方と話すことで新たな楽しみを見出すことや日本人同士のコミュニティ形成も考えている。個人でも団体でも参加できる取組である。

- ・今後の流れについて

#### ○事務局

次回会議前に、課題を整理した資料を郵送させていただきたい。それを踏まえて、委員の皆様からのご意見をいただければと思っている。

- ・次回開催日：令和3年11月25日 本庁舎7階 7-1・7-2会議室

### 4. 閉会

以上